

## 平成30年度医学部医学科卒業証書・学位記授与式を執り行いました

3月25日(月)、長崎大学医学部記念講堂で平成30年度医学部医学科卒業証書・学位記授与式が執り行われ、127名に証書が授与されました。

永安武医学部長からの祝辞では、平成の31年間には、医療分野での技術革新や高度な医療技術の導入などの急速な発展があったが、どんなにそれらが素晴らしいものであっても、それを制御していく医療従事者側の心構えが重要であることが伝えられました。加えて、常に患者に寄り添い良心に基づいた公正な医療を行う医師として、「医師は自らの天職を承知し、自身は病める人のものである」という長崎大学医学部の開祖 ポンペ・ファン・メールデルフォールト の言葉を今一度胸に刻んで、今後も活躍してほしいと、挨拶が述べられました。

また、卒業生代表の露木智久さんからは、現代の医療でも診断法さえわからない疾患や未解決の問題が山積みで、その影で今も苦しんでいる患者がいることに向き合い、医師として、深く幅広い知識や高い技術だけではなく、病気や怪我に苦しむ患者やその家族の不安、悲しみに寄り添う姿勢を培っていきたい、と答辞が述べられました。

長崎大学医学部医学科は、医療人になるための一歩を踏み出された卒業生の皆様の門出をお祝いし、今後のご活躍とご健勝を心より祈念しています。



